

平成25年度採択プログラム 事後評価調書

博士課程教育リーディングプログラム プログラムの概要 [公表。ただし、項目13については非公表]

機関名	名古屋大学	整理番号	S02
1. 全体責任者 (学長)	※共同実施のプログラムの場合は、全ての構成大学の学長について記入し、取りまとめを行っている大学(連合大学院によるもの場合は基幹大学)の学長名に下線を引いてください。 (ふりがな) まつお せいいち 氏名・職名 松尾清一 (名古屋大学総長)		
2. プログラム責任者	(ふりがな) たかはし まさひで 氏名・職名 高橋 雅英 (名古屋大学理事副総長 大学院医学系研究科・教授)		
3. プログラム コーディネーター	(ふりがな) つかむら ひろこ 氏名・職名 東村 博子 (名古屋大学副理事 大学院生命農学研究科・教授)		
4. 類型	S <複合領域型(多文化共生社会)>		
5.	プログラム名称	「ウェルビーイング in アジア」実現のための女性リーダー育成プログラム	
	英語名称	Women Leaders Program to Promote Well-being in Asia	
	副題		
6. 授与する博士学位分野・名称	博士(国際開発学)、博士(学術)、博士(教育学)、博士(農学)、博士(看護学)、博士(医療技術学)、博士(リハビリテーション療法学)、博士(医学) 付記する名称:「ウェルビーイング in アジア」実現のための女性リーダー育成プログラム		
7. 主要分科	(① 社会医学) (② 教育学) (③ 社会経済農学) ※ 複合領域型は太枠に主要な分科を記入		
	環境創成学、地域研究、ジェンダー、社会学、看護学、文化学、公共政策		
8. 主要細目	(①) (②) (③) ※ オンライン型は太枠に主要な細目を記入		
	衛生学・公衆衛生、教育社会学、社会・開発農学、環境政策・環境社会システム、地域研究、ジェンダー、疫学・予防医学、地域看護学		
9. 専攻等名 (主たる専攻等がある場合は下線を引いてください)	国際開発研究科全専攻、教育発達科学研究科全専攻、生命農学研究科全専攻 医学系研究科全専攻、農学国際教育協力研究センター、男女共同参画センター		
10. 共同教育課程を設置している場合の共同実施機関名			
11. 連合大学院として参画している場合の共同実施機関名			
12. 連携先機関名(他の大学等と連携した取組の場合の機関名、研究科専攻等名)	国際協力機構(JICA)、国連児童基金(UNICEF)東京事務所、フィリピン大学、ルンド大学、カンボジア王立農業大学、公益財団法人 水と緑の惑星保全機構、国際連合地域開発センター(UNCRD)		

14. プログラム担当者の構成 計 50 名					
外国人の人数	4 人	[8 %]	女性の人数	29 人	[58 %]
プログラム実施大学に属する者の割合		[78 %]			
プログラム実施大学に属する者		39 人	プログラム実施大学以外に属する者		11 人
そのうち、他大学等を経験したことのある者		37 人	そのうち、大学等以外に属する者		7 人

15. プログラム担当者

氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門学位	役割分担 (平成31年度における役割)
(プログラム責任者) 高橋 雅英	タカハシ マサヒデ		大学院医学系研究科・総合医学専攻・教授	実験病理学、博士(医学)	プログラム全体の統括・運営
(プログラムコーディネーター) 東村 博子	ツカムラ ヒロコ		大学院生命農学研究科・生命技術科学専攻・教授	家畜繁殖学、博士(農学)	プログラム実施に関する統括、企画委員会委員長
岡田 亜弥	オカダ アヤ		大学院国際開発研究科・国際開発専攻・教授	地域計画学、教育・人材開発論、Ph.D.	執行委員会、プログラム運営、国際連携
宇佐見 晃一	ウサミ コウイチ		大学院国際開発研究科・国際開発専攻・教授	農村開発学、博士(農学)	実践的教育、フィールドワーク
山田 肖子	ヤマダ ショウコ		大学院国際開発研究科・国際開発専攻・准教授	比較国際教育学、アフリカ研究 Ph.D.	実践的教育、国際連携、インターンシップ
西川 由紀子	ニシカワ ユキコ		大学院国際開発研究科・国際協力専攻・准教授	人間の安全保障、平和構築、博士(平和学)	実践的教育、フィールドワーク、インターンシップ
服部 美奈	ハツリ ミナ		大学院教育発達科学研究科・教育学専攻・准教授	教育人類学・比較教育学、博士(教育学)	実践的教育、基盤教育
河野 莊子	カノ ショウコ		大学院教育発達科学研究科・心理発達科学専攻・准教授	非行/犯罪心理学・臨床心理学、博士(教育学)	基盤教育
川北 一人	カキタ カスヒト		大学院生命農学研究科・生物機構機能科学専攻・教授	植物病理学、博士(農学)	プログラム運営、国際連携、実践的教育
大蔵 聡	オウクラ サトシ		大学院生命農学研究科・生命技術科学専攻・教授	家畜繁殖学、博士(農学)	プログラム運営、実践的教育、フィールドワーク
池田 素子	イケダ モトコ		大学院生命農学研究科・生物機構機能科学専攻・准教授	昆虫ウイルス学、博士(農学)	実践的教育、リーダーシップ教育
中川 弥智子	ナカガワ ミチコ		大学院生命農学研究科・生物圏資源学専攻・准教授	森林生態学・熱帯生態学、博士(理学)	実践的教育、フィールドワーク
上野山賀久	ウエノヤマ ヨシヒサ		大学院生命農学研究科・生命技術科学専攻・准教授	生物機能技術科学、博士(農学)	実践的教育、フィールドワーク
犬飼 義明	イヌカイ ヨシアキ		農学国際教育協力研究センター・准教授	植物遺伝育種学、博士(農学)	国際連携、実践的教育、評価
浅野 みどり	アサノ ミドリ		大学院医学系研究科・看護学専攻・教授	小児看護学、家族看護学、博士(看護学)	執行委員会、プログラム運営、実践的教育
川村 久美子	カムラ クミコ		大学院医学系研究科・医療技術学専攻・准教授	臨床検査学・臨床微生物学、博士(医学)	国際連携、基盤教育、実践的教育
入山 茂美	イヤマ シガミ		大学院医学系研究科・看護学専攻・教授	助産学・母性看護学、博士(保健学)	国際連携委員、実践的教育、フィールドワーク

15. プログラム担当者一覧(続き)

氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門 学位	役割分担 (平成31年度における役割)
門松 健治	カドマツ ケンジ		大学院医学系研究科・総合医学専攻・教授	生化学、博士(医学)	執行委員会、教育研究連携
寺崎 浩子	テラサキ ヒロコ		大学院医学系研究科・総合医学専攻・教授	眼科学、博士(医学)	執行委員会、基盤教育、実践的教育、国際連携
浜島 信之	ハマジマ ノブユキ		大学院医学系研究科・総合医学専攻・教授	医療行政学、博士(医学)	基盤教育、実践的教育、国際連携
木村 宏	キムラ ヒロシ		大学院医学系研究科・総合医学専攻・教授	ウイルス学、博士(医学)	基盤教育、リーダーシップ教育、フィールドワーク
山本 英子	ヤマモト エイコ		大学院医学系研究科・総合医学専攻・准教授	産婦人科腫瘍学、博士(医学)	基盤教育、国際連携、海外実地研修、フィールドワーク
榑原 千鶴	カキハラ チヅル		男女共同参画室・准教授	女性教育史、博士(文学)	執行委員会、プログラム運営、リーダーシップ教育
竹中 千里	タケナカ チサト		大学院生命農学研究科・生物圏資源学専攻・教授	森林環境化学、博士(理学)	プログラム運営、実践的教育、フィールドワーク
山内 章	ヤマウチ アキラ		大学院生命農学研究科・生物圏資源学専攻・教授	作物学、博士(農学)	プログラム運営、実践的教育、国際連携
島田 弦	シマダ ユズル		大学院国際開発研究科・国際協力専攻・准教授	開発法学、インドネシア法、博士(学術)	基盤教育、実践的教育、国際連携
香川 憲夫	カガワ ノリオ		大学院医学系研究科・総合医学専攻・ウエルビーイング特任准教授	生化学、構造生物化学、博士(理学)	アドミッションリクルート、管理運営
砂野 唯	スナノ ユイ		大学院生命農学研究科・ウエルビーイング特任助教	生態人類学・地域研究学(博士)	海外実地研修、アドミッション・リクルート
里中 綾子	サトナカ アヤコ		大学院医学系研究科・ウエルビーイング特任助教	理学療法学、博士(医学)	カリキュラム、企画評価
田淵 宗孝	タブチ ムネタカ		大学院教育発達科学研究科・ウエルビーイング特任助教	社会情報学、修士(国際学)	アドミッションリクルート、企画評価

15. プログラム担当者一覧(続き)

氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門学位	役割分担 (平成31年度における役割)
高井 次郎	タカイ ジロウ		大学院教育発達科学研究科・心理発達科学専攻・教授	コミュニケーション学(博士)	国際連携
古川 高子	フルカワ タカコ		大学院医学系研究科・医療技術学専攻・教授	放射線技術学、博士(薬学)	国際連携
中西 啓介	ナカニシ ケイスケ		大学院医学系研究科・ウエルビーイング特任助教	臨床看護学、基礎看護学、博士(看護学)	海外実地研修、国際連携、広報
若林 真美 (H29.10.1追加)	ワカバヤシ マミ		大学院医学系研究科・ウエルビーイング特任助教	公衆衛生看護学、博士(医学)	海外実地研修、フィールドワーク、インターンシップ
内海 悠二 (H30.4.1追加)	ウツミ ユウジ		大学院国際開発研究科・国際開発協力専攻・准教授	国際教育開発学、博士(学術)	海外実地研修
古藪 真紀子 (H30.4.1追加)	コヤブ マキコ		大学院国際開発研究科・ウエルビーイング特任助教	国際開発学、修士(国際開発学)	海外実地研修、インターンシップ
伊藤 彰浩 (H31.4.1追加)	イトウ アキヒロ		大学院教育発達科学研究科・教育科学専攻・教授	教育社会学、博士(教育学)	実践的教育
石井 秀宗 (H31.4.1追加)	イシイ ヒデトキ		大学院教育発達科学研究科・心理発達科学専攻・教授	計量心理学、博士(教育学)	実戦的教育、フィールドワーク
横山 悦生 (H31.4.1追加)	ヨコヤマ エツオ		大学院教育発達科学研究科・教育科学専攻・教授	技術教育学、修士(教育学)	国際連携、インターンシップ
(その他の大学)					
清水 嘉与子	シミズ カヨコ		公益財団法人 水と緑の惑星保全機構・会長、国際看護交流協会理事、日本看護連盟会長、元環境庁長官	看護学、学士(衛生看護学)	リーダーシップ教育
名取 はにわ	ナトリ ハニワ		元内閣府男女共同参画局長	ジェンダー法学、修士(政治学)	実践的教育、リーダーシップ教育、評価
戸田 隆夫	トダ タカオ		国際協力機構(JICA)・人間開発部・部長	国際協力論、人間開発論、博士(国際開発学)	国際連携、実践的教育、インターンシップ
Lourdes N. Pagaran	ルウデス パガラン		世界銀行(World Bank) Senior Operations Officer	Development Effectiveness Ph.D.	実践的教育、国際連携、インターンシップ
Araceli O Balabagno	アラセリ オカンホ ハラバグノ		フィリピン大学・看護学科長	看護教育、成人看護、Ph.D.	国際連携
Kajsa Wid e'n	カイサ ウィデン		ルンド大学・男女共同参画室・室長	男女共同参画学(文学)	リーダーシップ教育
横山 和子	ヨコヤマ カズコ		東洋学園大学大学院現代経営研究科・現代経営学部・教授	人的資源管理、グローバル人材育成、博士(経済学)	実践的教育、国際連携
西澤 真理子	ニシザワ マリコ		株式会社リテラシー(Litera Japan Corporation)・代表	リスク政策、リスクコミュニケーション、Ph.D.	実践的教育、リーダーシップ教育
Pheng Vutha	ペン フッタ		カンボジア王立農業大学・講師	家畜繁殖学、博士(農学)	国際連携、実践的教育、フィールドワーク
垂井 美枝子	タルイ ミエコ		元国連児童基金(UNICEF) 本部人事局次長・国際人事管理コンサルタント	国際人事管理、修士(人事管理学)	国際連携、リーダーシップ教育、キャリア開発支援、評価
高瀬 千賀子	タカセ チカコ		国際連合地域開発センター(UNCRD) 所長	経済学、修士(経済学)	国際連携、リーダーシップ教育、インターンシップ

16. プログラムの応募学生数、合格者数及び履修生数

本プログラムの過去のリーディングプログラム応募学生数等について記入してください。

(各年度3月31日現在(ただし平成31年度は提出日現在))

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度 (2019) *(今後の募集予定: 有・無)	
プログラム募集定員数	-	20	20	20	20	10	10	
① 応募 学生 数	-	29	26	24	21	5	5	
	うち留学生数	9	14	11	10	0	2	
	うち自大学出身者数	- (-)	10 (0)	6 (0)	8 (1)	4 (0)	3 (0)	3 (0)
	うち他大学出身者数	- (-)	19 (9)	20 (14)	16 (10)	17 (10)	2 (0)	2 (2)
	うち社会人学生数	- (-)	15 (4)	13 (8)	11 (6)	8 (5)	1 (0)	3 (2)
	うち女性数	- (-)	22 (7)	20 (11)	20 (9)	17 (9)	3 (0)	4 (4)
② 合格 者数	-	20	19	18	16	5	-	
	うち留学生数	-	6	8	9	8	0	-
	うち自大学出身者数	- (-)	10 (0)	6 (0)	7 (1)	3 (0)	3 (0)	- (-)
	うち他大学出身者数	- (-)	10 (6)	13 (8)	11 (8)	13 (8)	2 (0)	- (-)
	うち社会人学生数	- (-)	8 (3)	10 (6)	10 (5)	5 (4)	1 (0)	- (-)
	うち女性数	- (-)	16 (5)	15 (7)	16 (8)	13 (7)	3 (0)	- (-)
③ ②の うち 履修 生数	-	20	18	18	16	5	-	
	うち留学生数	-	6	8	9	8	0	-
	うち自大学出身者数	- (-)	9 (0)	6 (0)	7 (1)	3 (0)	3 (0)	- (-)
	うち他大学出身者数	- (-)	11 (6)	12 (8)	11 (8)	13 (8)	2 (0)	- (-)
	うち社会人学生数	- (-)	8 (3)	10 (6)	10 (5)	5 (4)	1 (0)	- (-)
	うち女性数	- (-)	16 (5)	14 (7)	16 (8)	13 (7)	3 (0)	- (-)
プログラム合格倍率 (応募学生数/合格者数) (小数点第三位を四捨五入)	-	1.45倍	1.37倍	1.33倍	1.31倍	1.00倍	-	
充足率 (合格者数/募集定員)	-	100%	95%	90%	80%	50%	-	

※留学生については、「うち留学生数」にカウントするとともに、うち自大学出身者数、うち他大学出身者数、うち社会人学生数、うち女性数の()に内数を記入してください。

※平成31年度*(今後の募集予定:有・無)については、平成31年度内に履修を開始する学生を募集予定の場合(秋入学等)は「有」に、募集予定がない場合は「無」に印を付けてください。

また、「有」の場合は、当該予定分については表中には含めず、備考欄へ募集時期及び募集予定人数を記入してください。

※編入学生がいる場合は、年度ごとの内訳を備考欄に記入してください。

リーダーを養成するプログラムの概要、特色、優位性

(広く産学官にわたリグローバルに活躍するリーダー養成の観点から、本プログラムの概要、特色、優位性を記入してください。)

【概要】本プログラムは、多文化共生に資するウェルビーイング（豊かな生活を実現し権利を保障する）をアジアで実現するために、異文化相互理解に立脚した国際性と使命感を兼ね備えたグローバルに活躍できる女性リーダーを育成することを目的とする。具体的には、アジアのなかで、ウェルビーイングの実現に密接に関わる食（量的確保と安全）、環境（衛生）、健康（医療、福祉）、社会（脱貧困）、教育（次世代育成）における諸問題を、医学・保健学・農学・国際開発学・教育学の各分野で獲得した高度な専門性を活かし、**グローバルな視点で意志決定できる女性リーダーの育成を図る。**アジアにおける“ウェルビーイング”の実現には、多様な文化への理解と尊重が不可欠である。一方で、多くのアジア諸国で問題となっている高い乳幼児死亡率（日本の約数十倍）などの共通課題は、食や健康、環境、教育、社会システムの各分野における**専門的な「知」を結集し、アジアの文化を理解・尊重できる専門家**によって解決すべき課題である。新たな「**統合知**」を目指す本プログラムは、個別の学問領域では解決しえない課題への**グローバルな視点でのアプローチと課題解決**を可能とする人材を育成する。

【組織】国際開発、生命農学、医学（医学科・保健学科）、教育発達科学研究科の4研究科、および男女共同参画室、農学国際教育協力研究センターからなる研究教育支援のプラットフォームを設置し、国内外の優れた研究者、国際機関・民間企業等でグローバルに活躍する専門家らが担当する教育プログラムと、ロールモデルとなる女性教員・専門家らからなるリーダー育成プログラムを実施する。

【プログラム】女子学生を対象とするが、男女共同参画を支える男子学生にも本プログラムへの参加を認める。

学生の成長に応じた M1～D3 の 5 年間を通じた段階的教育プログラムである。アジア各国連携機関等における「**実践的教育**」、5 年間の徹底した「**語学力・発信力強化プログラム**」、4 研究科合同での副指導教員制、産官学の各関連分野のエキスパートによる「**リーダーシップ教育**」などにより、高度な研究推進能力に加え、コア能力「企画力・実践力・ジェンダー理解力・俯瞰力・発信力・現場力」の獲得を推進し、グローバル企業・国際開発・協力分野での意思決定を担う女性リーダーを育成する。M1: 自己とアジアにおけるウェルビーイング課題の発見を促し、グローバル視点を養うための基盤教育。留学生との合同合宿 (All Night Cross-Cultural Talk; M1～D3 毎年実施)、対象国学生との合同チームによる課題発掘をテーマとした海外での**ディスカバリー研修等**。M2: 博士課程研究課題設定に向けた基盤教育。研究テーマ設定のための予備調査・対象地でのネットワーク作りのための**海外プラットフォーム研修、ディベート力強化プログラム等**。D1: キャリアプランと博士研究課題研究を確実にするための**海外フィールド調査**（約半年）、**リーダーシップ教育**、国際機関での**インターンシップ**（短期）等。D2: 確実な研究能力・実務能力やリーダーシップ力を磨き、研究成果の学会や論文による発表や将来ビジョンの発信力を強化。D3: 博士論文完成、キャリア形成支援。D2 年次で D 論文作成を終え、Qualifying Examination で優秀な成績を収めた学生には、PhD 取得後のキャリアパスとなる**国際機関等でのインターンシップ**（約 1 年間）を実施。**キャリア継続支援**: 本籍専攻の教員に加え、1 名以上の他研究科教員が学生の指導にあたる。男女共同参画室が各々の学生に適した**女性メンター**をコーディネートする。また、D1-D3 女子院生が、M1-M2 のプログラムに指導的に参加する**ピアサポート**により、世代を超えた女性リーダーの協力体制を築く。

【評価・質保証】M2 から D1 への進学時に、本プログラム運営委員会が定めるチームにより、研究課題、語学力習得度、ディベート力、研究成果等を総合評価し、一定の水準に達した学生のみを本プログラム D 学生として認める。プログラム修了時（博士学位取得時）に、研究成果、コア能力「企画力・実践力・ジェンダー理解力・俯瞰力・発信力・現場力」獲得状況と研究成果を総合的に判断し、一定の水準に達した学生に本プログラムのディプロマを授与する。

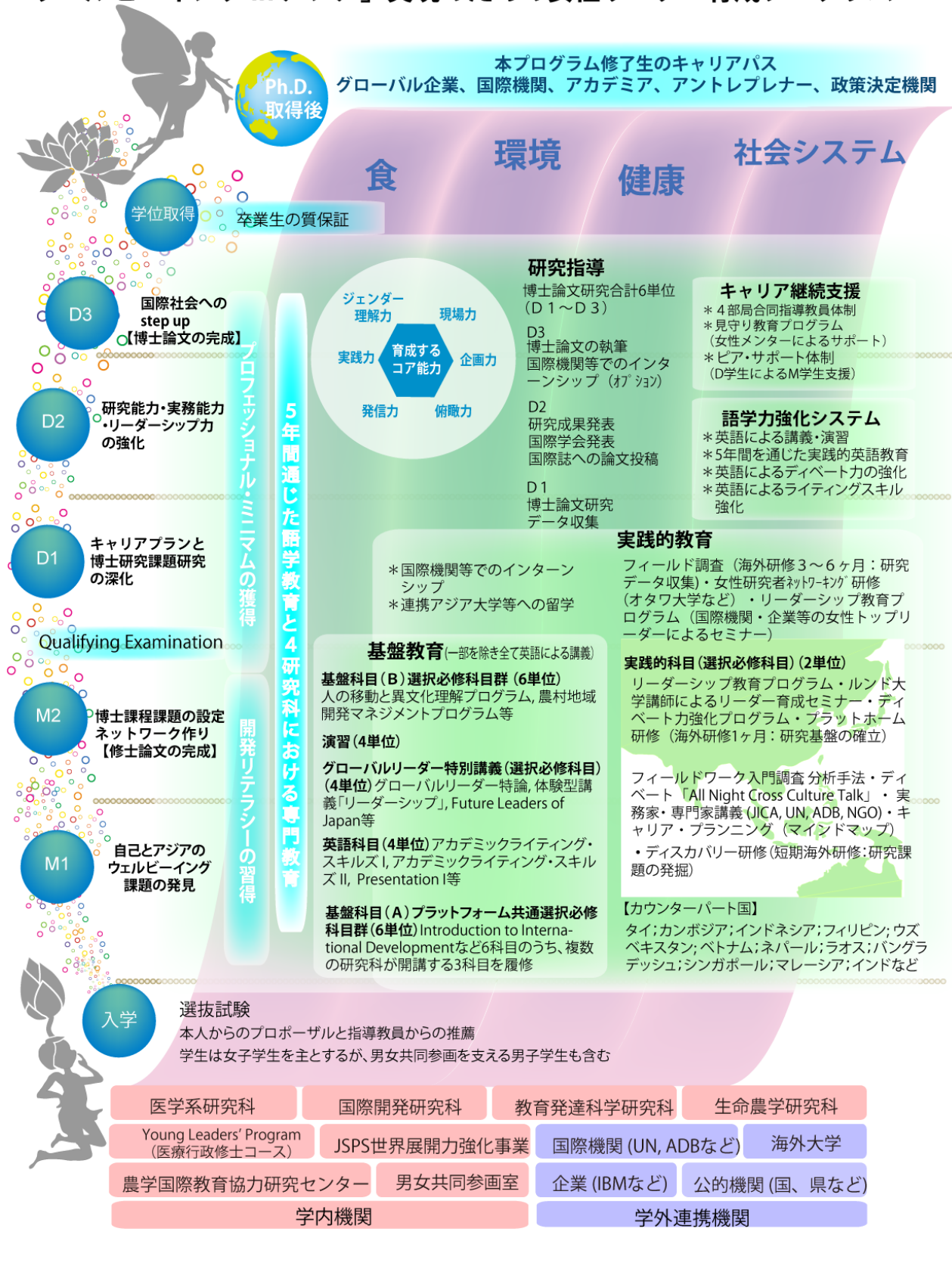
【特色】本プログラムの特色は、高い専門性と国際性と使命感を有する女性リーダーを育成する点である。アジアの多文化共生に資するウェルビーイングの実現のため、食、健康、環境、教育、社会システム分野の「**統合知**」に立脚する女性リーダーを育成し、未だ潜在力にとどまる女子学生を、グローバルに活躍できるリーダーとして育成する点にある。

【優位性】本学の優位性は、男女共同参画推進および国際協力事業の実績にある。10 年以上にわたる全学あげての男女共同参画推進の取り組みにより、国立大学女性教員実数増 1 位（2012 年現在）、国立基幹 7 大学中女性教員比率 1 位の実績をもつ。H27 年度には、UN Women 主催の“**HeForShe IMPACT 10x10x10 initiative**”の世界 10 大学の一つに選ばれた。担当する 4 研究科は女性教員・女子学生比率も高く、多くのロールモデルと将来リーダーとなる女子学生を擁する。さらに、アジアをはじめ世界各地に多くの提携校を有し、国際機関、NGO、企業とも広いネットワークを築き、国連との MOU 締結を進めるなど、研究協力、インターンシップ等、豊富な国際交流実績を有していることも優位な点である。

プログラムの概念図

(優秀な学生を俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーとして養成する観点から、コースワークや研究室ローテーションなどから研究指導、学位授与に至るプロセスや、産学官等の連携による実践性、国際性ある研究訓練やキャリアパス支援、国内外の優秀な学生を獲得し切磋琢磨させる仕組み、質保証システムなどについて、プログラムの全体像と特徴が分かるようにイメージ図を書いてください。なお、共同実施機関及び連携先機関があるものについては、それらも含めて記入してください。)

「ウェルビーイング in アジア」実現のための女性リーダー育成プログラム



プログラムの成果

(優秀な学生を俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーとして養成するという観点に照らし、学生や修了者の活躍状況を含め、アピールできる成果について記入してください。)

【分野融合型教育プログラムの整備】本プログラムは、特に東南アジアの開発途上国を対象とし、医学・保健学・農学・国際開発学・教育学の各分野の高い専門性に基づき、多文化からなる社会の諸問題を認識・解析し、解決に導くための理論と経験を身につけた女性リーダーの育成を図る体系的な教育体制を整備した。高い専門性に加えて身につけるべき能力として、「俯瞰力」、「現場力」、「ジェンダー理解力」、「企画力」、「実践力」、「発信力」の6つの能力を養成するために以下の一貫した分野融合教育プログラムを構築した。国際的活動に必須の英語力を高めるために、本プログラム合格決定後、TOEFL iBT の受験を義務付け、履修生の英語力に基づいたクラス分けをしてベルリッツ、英国人教員などによる英語クラスを整備すると共に定期的に語学力確認試験の受講を義務付けると共に、全ての活動、講義は英語で実施した。M1、M2 では、グローバルに活躍する女性リーダーのロールモデルでもある学際的分野の講師による講義シリーズ、**グローバルリーダー1**、**グローバルリーダー2**、国際機関、政府機関、JICA 等で活躍する女性リーダーを招聘し、国際的な組織・機関での専門的な活動に焦点を当てた講義シリーズ、**グローバルリーダー3**、民間企業、NGO などで国際的な活動をしている女性リーダーによる講義シリーズ、**グローバルリーダー4**を整備した。さらに体験型カリキュラムとして、M1 で実施する視察を主体の**海外実地研修1** (ベトナム、フィリピン、インドネシア等、10 日前後)、D1 で実施するより専門に基づいた研究調査を主体とする**海外実地研修2** (タイ、マレーシア、カンボジア等、2 週間前後)を整備した。また、学生が主体的に企画運営し、全履修生が毎年参加する **Cross Cultural Talk** を実施することにより、留学生を交えた文系、理系学生の交流、学年間の交流、更には研究科の異なる教員間の交流が推進された。

【体系的教育の実績と成果】英語教育の成果は顕著に表れており、当初は TOEFL iBT 59 の日本人学生が2年後には88に到達するなど、D3 までには半数以上の学生が TOEFL iBT で85、又は IELTS 6.5 以上をクリアした。それぞれの講義シリーズでは、特に**多様性の理解**を深めると共に英語での議論になれ**発信力を高める**ことを目指して講師への質疑応答、**グループディスカッション**に十分な時間をとる一方で、国際機関、グローバル企業などでの**キャリアデベロップメント**についても具体的に学ぶ体制を構築した。その結果、初年度に RA として採用した学生で、後に本プログラムの特任助教となった学生は、**UNFAO (国連食糧農業機関)**に採用され、**カイロ事務所 (エジプト)**にて活躍し、帰国時にはロールモデルとして学生への講演、コンサルテーションを行なっている。海外実地研修においては、事前に医学系研究科の教員による体型的な感染症予防の講義を受講したのち付属病院にて必要な予防接種を行なったことにより、発展途上国で活動する際に必要な**感染症に対する知識**を身につけた。一方で、事前に行う海外研修演習1 および2において、現地の機関、大学等から講師を招聘し、訪問先の農業、医療、教育制度、社会体制を学び、予め明確な**目的意識を持って現地を訪問**したことで、現地の視察・研修、学生との交流も円滑に実施され、その成果は、論文として発表されている。また、**JICA (国際協力機構)**、**UNFPA (国連人口基金)**、**UNFAO (国連食糧農業機関)**とは**インターンシップに関する覚書**を結び、その他の国際機関も含めると毎年2~4名の学生をインターンとして派遣した。

【修了者の活動状況】医学系研究科を早期終了した1名は私立大学の助教として、医学系研究科(保健)を終了した1名は、本学の助教として採用された。また生命農学研究科を修了した1名は国立研究機関に研究員として、1名は民間の農業コンサルティング企業に採用された。H31年度に博士号取得見込みの5名の履修生のうち1名は学校法人、3名は民間企業に就職または内定している。分野融合プログラム、多文化かつ国際的なプログラムで学ぶことにより視野が広がり、英語でのコミュニケーション能力の向上、また実際に女性リーダーとしてグローバルに活躍している講師に接することで、女子学生のライフイベントを考慮した選択肢が広がり、履修生のキャリアパスへの方向性が多様化した。約半数がアカデミアに、残り半数は民間企業に進んだことは女子学生のキャリアパスの選択肢の多様化を示すものであり、本プログラムの大きな成果である。

プログラムの成果

(大学院改革につながる教育研究組織の再編等の学内外への波及効果や課題の発見について記入してください。)

【改革推進のための組織編成】本プログラムは総長の強力なリーダーシップのもと、特に女性リーダー育成を目指して、生命農学研究科、医学系研究科、医学系研究科（保健）、教育発達科学研究科、国際開発研究科の各研究科全専攻による分野融合型のプログラムであり、ビジネス人材育成センター、男女共同参画センターも協力体制のもとに実施している。更に、大学全体の大学院改革を推進するために、本学で採択された6リーディングプログラムを統括する「リーディング大学院推進機構」を設置した。推進機構では、担当副総長が招集する運営委員会に加えて情報共有や日常業務を検討するための機構本部会議などを開催し、6リーディングプログラムの共通講義やシンポジウムを実施している。

大学全体として、本プログラム、およびこれら本学リーディングプログラムの補助期間終了後を見据えて、博士課程教育推進機構を平成29年10月に設置した。これは、名古屋大学が平成30年3月に指定国立大学に指定されたこととも大きく関係している。指定国立大学への取り組みとして、本学が7つの柱のうちの1つとして、特に取り上げたのが「卓越した博士人材の育成」である。そこでは、博士課程教育リーディングプログラムの経験と成果を活かして、博士課程教育推進機構を設置することが謳われている。機構での活動の中核をなすものの一つとして、本プログラムで推進した女性リーダー育成は、講義シリーズ、英語教育などの多くが大学院共通講義に組み込まれ、全学に波及、継続され、新たな機構を通じて、名古屋大学の大学院改革推進の基盤となる。

また、本学では平成26年度採択のスーパーグローバル大学創成支援プログラム（TGU）を中心に教育・研究の国際化を実施しているところであるが、そこでは社会との連携、本プログラムで研修先として訪問し連携を深めたベトナム、フィリピン、カンボジアなどフロンティア・アジアを主な対象としたアジアサテライトキャンパス学院の設置など、本プログラムの事例を発展させる取組が進められている。

【学外との連携と波及効果】（1）**国際機関との連携:**本プログラムで推進し、**インターンシップに関する覚書を結んだJICA（国際協力機構）、UNFPA（国連人口基金）、UNFAO（国連食糧農業機関）**とは連携して、今後も継続して名古屋大学からインターンを派遣する。また、国際機関で活躍する女性リーダーを大学院共通講義の講師として招聘し、グローバルに活躍できる学生の育成を推進する。

（2）**UN Womenとの連携:**本プログラムの活動をきっかけとして、名古屋大学は、UN WomenのImpact 10x10x10プログラムによる世界の10大学の一つに選ばれ、名古屋大学の主催あるいは同様に選ばれた資生堂、PwC Japan等と連携して**HeForSheセミナー**等を例年実施・推進してきた。本プログラムの活動は、UN Women University Parity Report 2016にも掲載されている。履修生および教員はこのHeForSheセミナーの企画、運営、あるいはパネリストとして参加し、ジェンダー、人権、開発などに関する履修生の発言は新聞にも掲載された。女性リーダー育成は名古屋大学の方針としても重要なものと捉えられており、2017年にはジェンダーリサーチライブラリーが新設された。

（3）**企業と博士の交流:**名古屋大学社会貢献人材育成本部ビジネス人材育成センターとの共同で、年1回、60社(平成29年度)ほどの企業の担当者を集め、プログラム学生を含む博士人材と企業のマッチングを行っている。グローバル企業で活躍する女性リーダーを講師とする講義シリーズ、協力企業による企業人メンター制度も構築整備された。

（4）**他大学との交流:**名古屋大学の6リーディングプログラムの女子学生が共同で企画運営した2016年第1回博士課程リーディングプログラム合同女子会（全国のリーディングプログラムに所属する女子学生約70名と産官学で活躍する博士号を持つ女性リーダーが参加）を開催し、2018年第2回が御茶ノ水女子大主催で開催された。全国の多様な博士課程の大学院に所属する女子学生、産官学で働く博士号を持つ女性との交流会として、本プログラム終了後も、卓越大学院プログラムの女子学生を中心に継続される。